



ゴールドマン コレクション 河鍋暁斎の世界

会期 | 2026年4月22日(水)～6月21日(日)



サントリー美術館(東京・六本木)は、2026年4月22日(水)～6月21日(日)まで「ゴールドマンコレクション 河鍋暁斎の世界」を開催いたします。

幕末・明治期に活躍し、今なお国内外で高い人気を博す河鍋暁斎^{かわなべきょうさい}(1831-89)は、天保2年(1831)、下総国古河(現在の茨城県古河市)に生まれました。数え2歳の時に、家族とともに江戸に移り住むと、7歳の頃から浮世絵師・歌川国芳に手ほどきを受けるようになります。その後、駿河台狩野派の^{まえむらとうわ}前村洞和・^{かのうとうはくのりのぶ}狩野洞白陳信のもとで修業を積み、19歳の時に^{とういくのりゆき}洞郁陳之の号を授かります。安政4年(1857)に絵師として独立すると、その頃から「狂斎」を名乗り始め、肉筆画、浮世絵版画を数多く制作しました。様々な流派を広く学び、狩野派の本格的な訓練で培った高い技量と、^{きょうが}狂画(戯画)の諧謔精神を組み合わせ、独自の画風を確立しました。手がけた作品は神仏画から妖怪画、動物画、世相を反映した風俗画や戯画にいたるまで多岐にわたり、そのいずれにも卓越した画技と機知に富んだ発想が見られます。

人前で即興的に絵を描く席画も得意とし、客の求めに応じてその場で^{きごう}揮毫する^{しょうがかい}書画会にも頻繁に参加しますが、明治3年(1870)、書画会で酔って描いた絵が見咎められ、逮捕、投獄されます。放免の翌年、号を「暁斎」と改めて以降も精力的に制作を続け、暁斎の画業は全盛期を迎えます。

また、開国以来、多くの欧米人が日本を訪れるようになり、暁斎と交流を持ちました。フランスの美術品蒐集家であるエミール・ギメは、その著書『日本散歩 東京一日光』（1880年刊）で初めて暁斎を海外に紹介し、欧米における暁斎の知名度を高めました。日本に住んでいた建築家のジョサイア・コンドルや元軍人でジャーナリストのフランシス・ブリンクリーらは、暁斎の弟子となって絵を学んでいます。

明治22年（1889）、暁斎は胃がんのため59歳で亡くなりますが、彼の生み出した作品は国内外に多大な影響を与えました。

本展では、暁斎コレクションとしては世界でトップクラスの質と量を誇る、イギリス在住のイスラエル・ゴールドマン氏の所蔵作品より、コレクションを代表する名品や、日本初出品の貴重な肉筆画、第一級の摺^{すり}と保存状態の版画など約110件を展示します。

出品作の半数以上が日本初出品となる、世界最高峰の暁斎コレクションを通して、暁斎の多彩な世界をお楽しみください。



地獄太夫と一休 河鍋暁斎 一幅
明治4～22年（1871～89） イスラエル・ゴールドマン・コレクション Photo: Ken Adlard 【通期展示】

※本展出品作品はすべて、作者は河鍋暁斎、所蔵はイスラエル・ゴールドマン・コレクションです。

ゴールドマン・コレクションについて

浮世絵および江戸絵画の美術商であるイスラエル・ゴールドマン氏 (Israel Goldman, 1958～) は、1980年代前半に暁斎作品の蒐集を始めました。40年以上の年月をかけて形成されたイスラエル・ゴールドマン・コレクションには、掛軸、巻物、屏風絵などの肉筆作品、版本・版画作品に加えて、下絵や画稿、暁斎絵日記の優品なども含まれており、暁斎の画業を包括的に概観することができます。また、浮世絵を専門に扱うディーラーとしての氏のこだわりを反映し、早い摺の、非常に状態のよい版画・版本作品が多く集められている点も、このコレクションの特徴の一つです。ゴールドマン氏は現在でも精力的に暁斎作品を蒐集しており、コレクションは成長を続けています。

展示構成

※展覧会会場では、章と作品の順番が前後する場合があります。また、展示内容は予告なく変更される場合があります。

第1章 ゴールドマン・コレクションのスターたち



百鬼夜行図屏風 河鍋暁斎 六曲一双 明治4～22年(1871-89) イスラエル・ゴールドマン・コレクション
 写真協力:立命館大学アート・リサーチセンター 【通期展示】

暁斎は、10歳から9年間、武家の御用絵師であった駿河台狩野派で修業を積み、本格的な作画技術を身につけました。その後、浮世絵版画の世界にも足を踏み入れ、様々な流派の画風を学びながら独自のスタイルを確立します。狂画を自分の芸術的アイデンティティとして重視し、安政4年(1857)頃から「狂斎」と号して(明治4年／1871以降は「暁斎」)、肉筆画・版画の両方で多数の狂画作品を手がけました。狩野派で学んだ本画に、狂画の諧謔精神や、当世への関心、日常的な生活感情、動きあふれる描写を組み合わせ、《地獄太夫と一休》のような暁斎独特の表現を実現してみせました。

本章には軽筆の即興的な絵から、下絵に基づいて丹念に仕上げた本画まで、暁斎の真骨頂が発揮された多様な画風と画題の作品を集めました。

まずは、ゴールドマン・コレクションの肉筆名品セレクションで、多彩な暁斎の世界をご堪能いただきます。

主な出品作品	・象と子熊	一葉	慶応元年頃～明治3年(c. 1865-70)
	・蛙の学校	一葉	明治零年代中頃(1870年代前半)
	・幽霊図	一幅	慶応4年／明治元年頃～3年(c. 1868-70)
	・地獄太夫と一休	一幅	明治4～22年(1871-89)
	・閻魔大王浄玻璃鏡図 えん ま だいおうじょう はり きょう ず	一幅	明治4～22年(1871-89)
	・百鬼夜行図屏風 ひゃく き やぎょう ず びよう ぶ	六曲一双	明治4～22年(1871-89)
	・墨合戦	一幅	明治4～22年(1871-89)
	・書画会図	一幅	明治9～11年(1876-78)頃

第2章 けもの



1



2



3

- 1 猫又図 河鍋暁斎 一幅
明治4～22年(1871-89)
イスラエル・ゴールドマン・コレクション
Photo: Ken Adlard 【通期展示】
- 2 蝶と菊に猫 河鍋暁斎
一幅 明治4～22年(1871-89)
イスラエル・ゴールドマン・コレクション
Photo: Ken Adlard 【通期展示】
- 3 蛙の射的場 河鍋暁斎 一幅
明治4～9年(1871-76)頃
イスラエル・ゴールドマン・コレクション
写真協力:立命館大学アート・リサーチ
センター 【通期展示】

暁斎は、生命感に満ちた個性的で魅力のある動物画を数多く手がけました。彼が描く動物たちは、時には愛らしく茶目っ氣にあふれ、時にはゾクッとするような野性味を感じさせます。

なかでも^{からす}鴉と蛙は、暁斎のトレードマークともいえる特別な画題です。明治14年(1881)、第二回内国勸業博覧会に出品した《^{こぼくかんあず}枯木寒鴉図》(榮太樓總本舗蔵)が絵画部門における最高賞を受賞し、通常の十数倍の値段である百円で買い上げられます。それ以降、鴉は暁斎の絵師としての名声と成功の象徴となりました。

また、3歳で初めて写生したのが蛙であったと伝わっており、絵師になってからも、《鳥獣人物戯画》(高山寺蔵)に影響を受けた作品など、蛙を様々な姿で描いています。

さらに、暁斎は猫も好み、絵に多く描きました。幼少時に絵の手ほどきを受けた浮世絵師の歌川国芳も大の猫好きとして知られています。

暁斎にとって動物を描くことは、自然界を絵にするというだけでなく、伝統的な画題に取り組むことでもあり、また、狂画として当時の人間社会を描く手段ともなっていました。

主な出品作品	・枯木に夜鴉	一幅	明治4～22年(1871-89)	〈初出品〉
	・蛙の射的場	一幅	明治4～9年(1871-76)頃	〈初出品〉
	・猫又図	一幅	明治4～22年(1871-89)	〈初出品〉
	・蝶と菊に猫	一幅	明治4～22年(1871-89)	〈初出品〉
	・ ^{せいせい} 怪々暁斎漫画小品	一冊	明治4～22年(1871-89)	〈初出品〉

第3章 ひと



三味線を弾く洋装の骸骨と踊る妖怪 河鍋暁斎 一葉
明治4～12年(1871-79) イスラエル・ゴールドマン・コレクション
写真協力:立命館大学アート・リサーチセンター 【通期展示】



暁斎絵日記 河鍋暁斎 一冊(部分) 明治15～16年(1882-83)
イスラエル・ゴールドマン・コレクション
写真協力:立命館大学アート・リサーチセンター 【通期展示】

暁斎は、歴史的人物や伝説の登場人物を取り上げた作品、美人画なども手がけていますが、暁斎の人間に対する強い関心は、むしろ同時代の社会を題材にした数多くの作品に強くうかがうことができます。

本章では、江戸時代後期から明治時代にかけて大流行した商業的イベントである書画会や、幕末・明治期の海外への高い関心を反映して、外国人を題材とした作品など、当時の風俗を描いた作品を紹介します。暁斎はほぼ毎日絵日記をつけていましたが、そこにも書画会や、より個人的な集まりの席画会、自宅や弟子のジョサイア・コンドル宅で絵を描く様子を記録しています。骨の髄まで変わらない人間の性^{さが}や、骨まで染みついた享楽主義を、風刺的に骸骨たちの姿で表した絵や、ひとの高慢さを天狗として表現した作品もあります。

当世への関心とその表現は、暁斎が狂画の世界で育み、大いに探求したものの一つでした。

主な出品作品

- | | | |
|-------------------|----|------------------------|
| ・三味線を弾く洋装の骸骨と踊る妖怪 | 一葉 | 明治4～12年(1871-79) |
| ・月下骸骨宴会図 | 一幅 | 明治4～22年(1871-89) 〈初出品〉 |
| ・牛若丸と僧正坊 | 一幅 | 明治4～22年(1871-89) 〈初出品〉 |
| ・放屁合戦図 | 一卷 | 明治14年(1881) 〈初出品〉 |
| ・暁斎絵日記 | 一冊 | 明治15～16年(1882-83) |

第4章 おに



大津絵夕立図 河鍋暁斎 一葉 文久2年(1862)
イスラエル・ゴールドマン・コレクション
写真協力:立命館大学アート・リサーチセンター
【通期展示】



酒のツマミに鰐を準備する鬼 河鍋暁斎 一葉
慶応元年頃～明治3年(c. 1865-70) イスラエル・ゴールドマン・コレクション
Photo: Ken Adlard 【通期展示】

地獄の獄卒や、羅漢など仏教の聖者に従う眷属の鬼、風神・雷神、魁星、鍾馗に追われる鬼、追儼の鬼、大津絵の鬼など、暁斎は好んで様々な鬼を絵にしています。鬼の酒呑童子や大森彦七の鬼女など、恐ろしい鬼も描いてはいますが、暁斎の作品に圧倒的に多く見られるのは、ややコミカルな愛嬌のある鬼たちです。

酒狂、好色などの「悪癖」は鬼の属性とされ、暁斎は酒好きの自分を鬼の姿に重ねたようです。酒飲みの大津絵の鬼や、鍾馗に虐げられる鬼の姿には、とくに親しみが込められています。

常人の「普通」を超える暁斎の性癖や逸脱性も、鬼に例えられました。9歳から11歳まで師事した狩野派絵師・前村洞和から「画鬼」の愛称を得た暁斎は、鬼に対して特別な思いを抱いていたことが作品の随所から感じられます。



酒呑童子図絵 十六図のうち一図
明治11年(1878)頃
イスラエル・ゴールドマン・コレクション
Photo: Ken Adlard 【通期展示】

主な出品作品	・大津絵夕立図	一葉	文久2年(1862)	〈初出品〉
	・酒のツマミに鰐を準備する鬼	一葉	慶応元年頃～明治3年(c. 1865-70)	〈初出品〉
	・鬼に酒肴図	一幅	明治4～22年(1871-89)	〈初出品〉
	・酒呑童子図絵	十六図のうち二図	明治11年(1878)頃	〈初出品〉

第5章 かみ、ほとけ

竜頭観音図
河鍋暁斎
一幅
明治4～22年
(1871-89)
イスラエル・ゴールド
マン・コレクション
Photo: Ken Adlard
【通期展示】



鐘馗騎象図
河鍋暁斎
一幅
明治零年代後半
(1870年代中頃)
イスラエル・ゴールド
マン・コレクション
Photo: Ken Adlard
【通期展示】

明治12年(1879)頃、暁斎は本郷湯島にある真言宗・霊雲寺の法弟となり、「暁斎」の画号に加えて「如空」の法号も用いるようになりました。信仰の対象として描いた仏画は、達磨禅師、観音菩薩、文殊菩薩が最も多く確認されています。また、五月の節句には鍾馗図を多数制作し、おめでたい七福神の絵も人気のある画題でした。

達磨や鍾馗、さらに不動明王などは、狂画としても描かれ、なかでも七福神や、七福神とも関係が深いお福は、この世の様々な楽しみに興じる、世俗的で人間的な神々として描かれました。

また、仏教や道教の聖人たちがまるで人間のように遊び、戯れる様子を描く《異代同戯図》は、狩野派に受け継がれた数少ない戯画のレパートリーとして知られます。暁斎は、その系譜を踏まえつつ、新たに当代風刺をきかせた作品を残しています。

本章では、神仏を敬うと同時に狂画の題材としても扱う、暁斎の「かみ、ほとけ」に対する多様な関わり方を紹介します。

主な出品作品

- | | | | |
|---------------------------------------|----|-------------------|-------|
| ・鐘馗騎象図 | 一幅 | 明治零年代後半(1870年代中頃) | 〈初出品〉 |
| ・竜頭観音図
<small>りゅうず かんのおん ず</small> | 一幅 | 明治4～22年(1871-89) | 〈初出品〉 |
| ・五聖奏楽図
<small>ごせいそうがく ず</small> | 一幅 | 明治4～20年(1871-87) | |
| ・七福神有閑之図 | 一面 | 明治4～22年(1871-89) | 〈初出品〉 |

第6章 版画の名品



風流蛙大合戦之図 河鍋暁斎 大判錦絵三枚続 元治元年(1864)7月
 イスラエル・ゴールドマン・コレクション Photo: Ken Adlard 【展示期間:4/22～5/18】

暁斎は肉筆画制作を主とする絵師でしたが、浮世絵版画および版本の版下絵も数多く描きました。幕末の世相を映した風刺的、時事的な浮世絵を制作したほか、団扇絵もあまた手がけたことが、残された校合摺によって知られます。

とくに文久3年(1863)頃から制作数が増える風刺的浮世絵は、揺らぎに満ちた政治的動乱の時代を反映して、作品にダイナミックな動きをもたらししました。この新たな世界に踏み出したことで、暁斎は狩野派の安定した構図から大きく逸脱した表現方法を身につけました。また、神話や歴史、吉祥画や禅画など、既存の伝統的画題を扱った狩野派に対し、浮世絵は当世、つまり現在にフォーカスする点も、その後の暁斎の作品に大きな方向性を与えることとなりました。

ゴールドマン・コレクションの特筆すべき点の一つに、浮世絵を専門とする美術商であるゴールドマン氏のこだわりを反映し、摺が早く、非常に保存状態のよい版画作品が多数集められていることが挙げられます。なかには一点しか確認されていない希少作品や、これまで知られてこなかった図柄の新出作品も含まれています。

本章では、ゴールドマン氏のあくなき探求心によって見出された版画コレクションの精華をご覧ください。

主な出品作品

- | | | | |
|-------------|---------|----------------|-------|
| ・風流蛙大合戦之図 | 大判錦絵三枚続 | 元治元年(1864)7月 | 〈初出品〉 |
| ・新板かげづくし | 大判錦絵 | 慶応3年(1867)5月 | |
| ・木槿に鳥 | 団扇絵判錦絵 | 慶応3年(1867) | 〈初出品〉 |
| ・名鏡倭魂 新板 | 大判錦絵三枚続 | 明治7年(1874)9月 | 〈初出品〉 |
| ・応需暁斎楽画 第九号 | 地獄太夫 | がいこつの遊戯ヲゆめに見る図 | |
| | 大判錦絵 | 明治7年(1874) | |

ゴールドマン コレクション 河鍋曉斎の世界

会 期	2026年4月22日(水)～6月21日(日) ※作品保護のため、会期中展示替を行います。
主 催	サントリー美術館、朝日新聞社
協 賛	三井不動産、鹿島建設、ライブアートブックス(大伸社)、サントリーホールディングス
後 援	ブリティッシュ・カウンシル、TOKYO MX
協 力	全日本空輸
特別協力	イスラエル・ゴールドマン
会 場	サントリー美術館 東京都港区赤坂9-7-4 東京ミッドタウン ガレリア3階 アクセス(東京ミッドタウン[六本木]まで) 都営地下鉄大江戸線六本木駅出口8より直結 東京メトロ日比谷線六本木駅より地下通路にて直結 東京メトロ千代田線乃木坂駅出口3より徒歩約3分

基本情報

開館時間	10時～18時 ※金曜日および5月2日(土)～5日(火・祝)、6月20日(土)は20時まで ※いずれも入館は閉館の30分前まで
休 館 日	火曜日(5月5日は20時まで開館)
入 館 料	・当日券：一般1,800円、大学生1,200円、高校生1,000円 ・前売券：◎一般1,600円、大学生1,000円、高校生800円 ◎前売ペアチケット3,000円 ※2名様分(2回券としても利用可能) ※販売はサントリー美術館公式オンラインチケットのみ ※中学生以下無料 ※サントリー美術館受付、サントリー美術館公式オンラインチケット、ローソンチケット、セブンチケットにて取扱 ※前売券の販売は2025年11月22日(土)から2026年4月21日(火)まで ※サントリー美術館受付での販売は開館日のみ ※サントリー美術館は2026年1月13日(火)から4月21日(火)まで改修工事のため休館
割 引	・あとろ割：国立新美術館、森美術館の企画展チケット提示で100円割引 ・団体割引：20名様以上の団体は100円割引 ※割引適用は一種類まで(他の割引との併用不可)

※本展は神戸市立博物館(2026年7月11日～9月23日)、静岡県内(2026年10月10日～12月6日 ※予定)に巡回します。

イベント情報

| 展覧会関連プログラム |

講演会「ゴールドマン・コレクションが見せる新たな暁斎の世界(仮)」

講師：定村来人 氏 (イスラエル・ゴールドマン・コレクション・キュレーター、大英博物館アジア部 客員研究員)

日時：4月26日(日) 14時～15時30分

会場：6階ホール

定員：95名

料金：800円(別途要入館料)

※オンライン販売のみ・先着順。公式チケットサイトより参加チケットをご購入ください。予定枚数に達し次第締め切ります。

メンバーズクラブ先行受付 3月27日(金) 10時～3月31日(火) (席数限定、先着順)、

一般受付 4月3日(金) 10時～(先着順)

| ファミリータイム |

日時：5月3日(日・祝) 10時～13時

中学生以下のお子様をお連れの方は入館料が割引になるキッズフレンドリーな時間帯

※小学生以下のお子様と保護者の方は9時30分から入館可能

詳細は当館ウェブサイトをご覧ください。追加のプログラムを開催する場合もウェブサイトでご案内します。

お問い合わせ

一般お問い合わせ

TEL：03-3479-8600

美術館ウェブサイト

<https://www.suntory.co.jp/sma/>

広報画像のお申込み

<https://www.suntory.com/sma/press/exhibition/v94r7P/upload/kyosai0129.pdf>

報道関係のお問合せ

サントリー美術館「河鍋暁斎の世界」広報事務局(株式会社TMオフィス内)

担当：馬場・永井・西坂

TEL：050-1807-2919 E-mail：kyosai@tm-office.co.jp

美術館への取材に関する お問い合わせ

サントリー美術館 〔学芸〕池田 〔広報〕光田

E-mail：sma-pr@suntory.co.jp

以 上